



# 結核病棟入院患者への 薬剤情報提供書の作成

福田祐子<sup>1</sup>、細田敦規<sup>1</sup>、朝日信一<sup>1</sup>、田中絵理<sup>1</sup>、三嶋美穂<sup>1</sup>、  
佐竹美優<sup>1</sup>、松井仁美<sup>1</sup>、久下隆<sup>2</sup>、板東千昌<sup>2</sup>、玉置伸二<sup>2</sup>、  
別府博仁<sup>1</sup>

1:NHO奈良医療センター薬剤部,2:NHO奈良医療センター内科

# 背景

当院は、結核病棟30床を有しており、薬剤師3名を配置し病棟業務を実施している。現在使用している薬剤情報提供書（薬情）は、患者にとって理解しにくい表現が多く、他職種からも薬情の記載内容に関する質問が多数あった。今回、看護師、入院患者にアンケートを実施、その結果を反映した薬情を新規に作成した。

## 【対象】

結核病棟配属のすべての看護師および結核病棟入院患者

※結核病棟入院患者のうち、以下の患者は除外した。

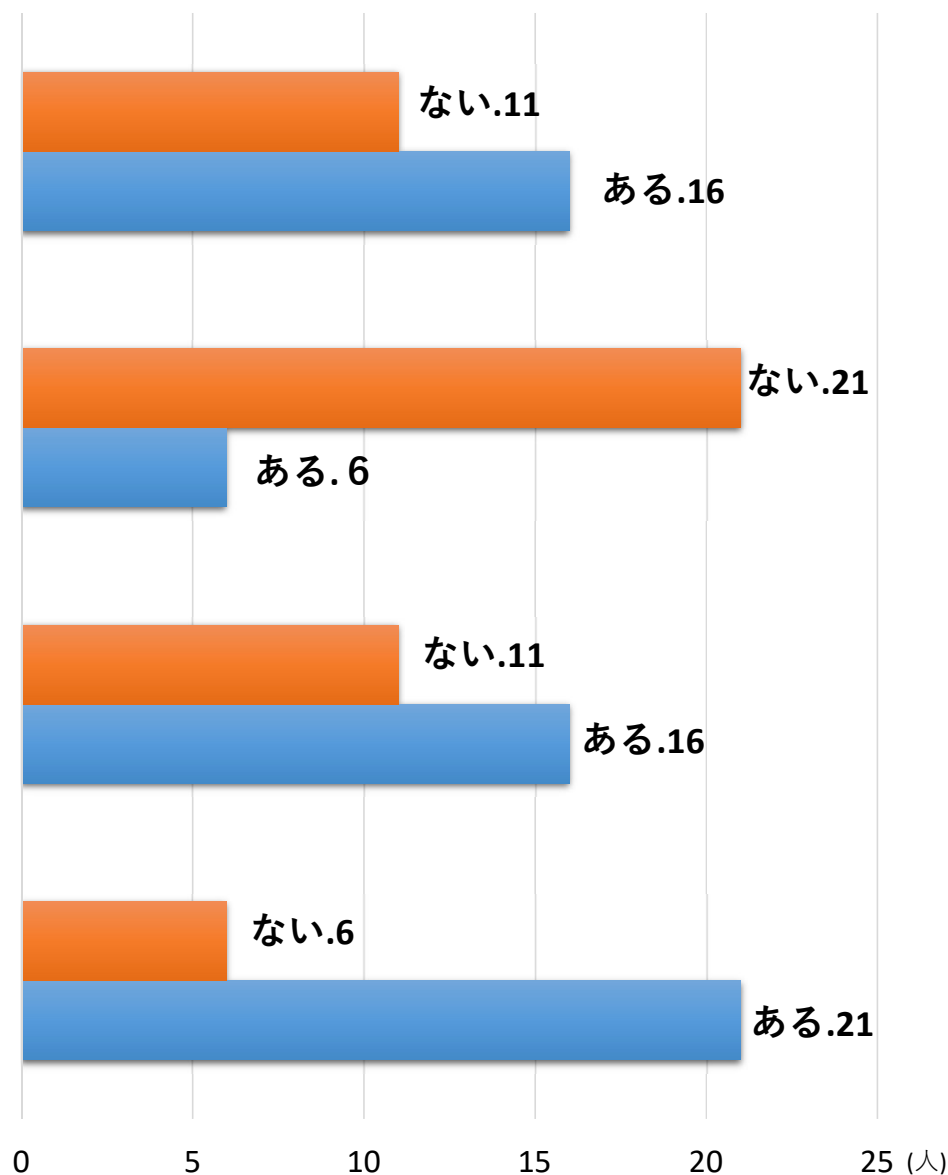
- 口頭での意思疎通が困難な患者
- 認知機能障害、見当識障害のある患者
- 服用中の抗結核薬が3剤未満の患者
- イソニアジド、リファンピシン、エタンブトール及びピラジナミド以外で治療を行っている患者

# 看護師対象アンケート項目

- ① 治療開始時、患者さんから抗結核薬に関する質問を受けられたことがありますか。
- ② 複数の抗結核薬を長期に服用することに対し、患者さんから不安の訴えをきかれたことはありますか。
- ③ 薬剤師介入後の患者さんで、本人の理解が不十分だった、あるいは、混乱されていた事例等を経験されたことがありますか。
- ④ 退院後も抗結核薬の内服を継続することが困難と思われる事例を経験されたことはありますか。
- ⑤ 薬剤師から積極的に説明してほしい、介入してほしい事項があれば、記載ください。
- ⑥ その他、ご意見があれば記入ください。

# 看護師向けアンケート結果 (34名に配布、27名より回収)

治療開始時、抗結核薬に関する質問を受けたことがあるか



薬剤師介入後、本人の理解が不十分、あるいは混乱していた事例があったか

複数の抗結核薬を長期に服用することに対する不安の訴えをきいたことがあるか

退院後も抗結核薬を継続して内服することが困難と思われる事例があったか

0 5 10 15 20 25 (人)

# 看護師向けアンケート自由記載より

- 長期にわたり多剤併用するので、副作用やもともとの常用薬との相互作用、飲み忘れに対する不安が大きい。
- ビタミンB6製剤も抗結核薬であると誤認されている。
- 途中で中止する薬剤に対する疑問がある。  
(エタンブトール、ピラジナミドなど)
- DOTSの意義を理解されていない。  
(特に入院前は問題なく自己管理していた患者)
- イソニアジドと食品との相互作用についての質問が頻回にある。
- 内服継続の重要性を理解していないため、退院後に自己中断する場合がある。

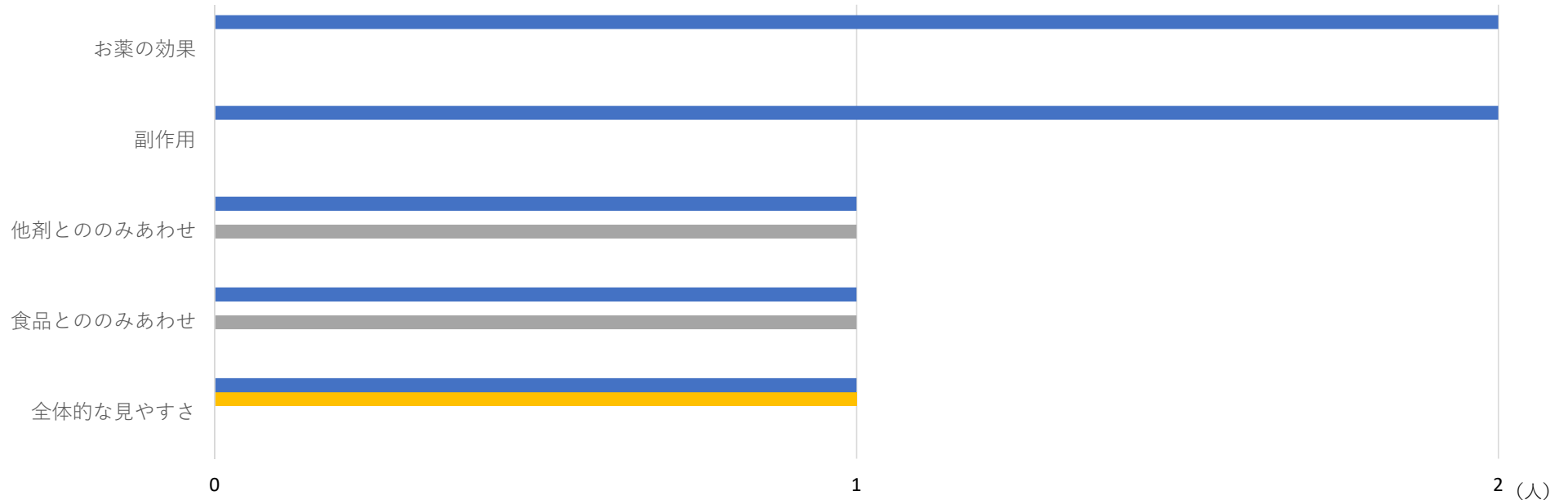
# 患者対象アンケート項目

①薬剤師がお渡しした「おくすり説明書」に関して、以下の項目について5段階での評価をお願い致します。

	わかりにくい			わかりやすい	
• お薬の効果	1	2	3	4	5
• 副作用	1	2	3	4	5
• 他のお薬との飲みあわせ	1	2	3	4	5
• 食品との飲みあわせ	1	2	3	4	5
• 全体的な見やすさ	1	2	3	4	5

②その他ご意見があればご記入ください。

# 患者向けアンケート結果 (2名に配布、2名より回収)



	全体的な見やすさ	食品とののみあわせ	他剤とののみあわせ	副作用	お薬の効果
■ 5	1	1	1	2	2
■ 4	1	0	0	0	0
■ 3	0	1	1	0	0
■ 2	0	0	0	0	0
■ 1	0	0	0	0	0

現在使用している薬情の「効果」「副作用」の記載はわかりやすい。

食品、他剤との相互作用の記載事項が広範囲になっており、難しく感じられている。

# 新規薬情

## 様の結核治療のためのおくすり

結核の薬は、必ず主治医の指示どおりに、決められた期間は自己判断で中断することのないように服用しましょう。

再発や、薬が効かなくなる菌の出現につながります。

①

薬が効かない菌が出現しないように、治療開始時は複数の作用の異なる薬剤を組み合わせ、使用します。薬が効いていることを検査で確認できれば、途中で中止する薬もあります。

入院中は\_\_\_\_\_食後に、**看護師がお部屋に来てからお飲みください。確実に治療をすすめるため、内服の確認をします。**

②

レ点の入った薬が処方されています。

副作用に関しては、個人差があります。薬をのみ始めて、体調に変化があれば、早めに医師・看護師・薬剤師にご相談ください。

お薬にはのみあわせに注意を要するものがあります。退院後、他の医療機関・薬局に行かれる場合は、必ず**お薬手帳を提示**いただき、医師・薬剤師にご相談ください。


①冒頭で内服継続の重要性とあわせて中断するリスクも説明




②DOTSの意義も薬剤指導の中で伝える



相互作用や副作用に関する記述は簡潔に。

「副作用」の早期発見につなげるため症状は具体的に。  
ビタミンB6は処方意図を記載。

薬剤名	用量	注意点など
<p>ロイスコチン錠 100mg</p> 	錠	<p>副作用として、手足のしびれ、目の見えにくさ、体のだるさ、発熱、発疹、筋肉痛、歯茎・鼻出血などがあります。のみあわせの悪い食品があります。詳細は、別紙も参照してください。</p> <p>例：熟成したチーズ、サラミ、レバー、ビール、ワイン、マグロ、ブリ、ハマチなどの魚</p> <p>※上記の食品は、大量に摂取しないようにしてください。大量に摂取することで、まれに、<b>一過性</b>の血圧上昇、動悸、発汗、かゆみ・発疹、吐き気、頭痛、顔面の紅潮がおこることがあります。病院食で提供される範囲の量であれば摂取しても問題ありません。</p> <p>魚に関しては、新鮮なものであれば問題ありません。</p> <p>※飲酒は肝機能に影響を与えるので、薬をのんでいる間は控えてください。</p>

<p>ロピドキサル</p> 	錠	<p>ビタミン B6 です。 イスコチンの副作用によるしびれを予防します。</p>
<p>ロリファンピシン カプセル 150mg</p> 	個	<p>尿・便・汗・涙・唾液が赤く着色することがありますが、心配ありません。 ソフトコンタクトレンズに着色することがあります。 副作用として、皮膚や白目が黄色くなる、激しい下痢、体のだるさ、発熱、発疹、歯茎・鼻出血などがあります。</p>
<p>ロエブトール錠 250mg</p> 	錠	<p>副作用として、目の見えにくさ・目の痛み、皮膚や白目が黄色くなる、発熱、発疹、歯茎・鼻出血、手足のしびれなどがあります。 服用にあたり、入院中に眼科を受診していただくことがあります。</p>
<p>ロピラマイド原末 (白色の粉薬)</p>	g	<p>副作用として、体のだるさ、皮膚や白目が黄色くなる、発熱、発疹などがあります。</p>

# 今後の課題

- 患者向けアンケートでは対象人数が少なかったため、今後も調査を続ける必要がある。
- 作成した薬情を薬剤指導に使用し、改良を重ね、結核患者への薬剤指導の質を向上させる。
- 各職種間で、抗結核薬の副作用や相互作用について、共通の認識をもつ必要がある。看護師向けアンケートでは、これらをテーマとした薬剤師が講師となる勉強会の希望もあったため、今後検討する。